

- 1 面：図書館展示会
2 面：順天堂大学教授に笹井先生
3 面：追悼故横山確教授
4 面：新入生歓迎会
5 面：国際医療研究会報告
6 面：小谷講師・田野崎博士受賞
7 面：シリーズ新中央診療棟1
8 面：極東医大との共同研究
題字 医学部長 遠藤正彦氏筆

図書館展示室展示会

「ノーベル医学・生理学賞に見る 現代西洋医学の系譜展」を企画して

医学部図書館の二階に小さなながらも展示室が完成した。工藤分館長の格別の御尽力に依るものである。完成したから記念に何か催事をしたいので、案を出すように図書委員会で求められた。私が提案した企画が右の標題に示した「ノーベル医学・生理学賞に見る現代西洋医学の系譜」の展示である。幸い各委員の方々

の御賛同も得られたので、六月初旬には展示を行ふことが出来ると思う。

二〇〇〇年はノーベル医学・生理学賞授賞が始まつて、丁度一〇〇年目を迎えるが、この記念すべき年にこのような展示が出来るのは大変意義深いものがあり、誠に時宜を得た企画ではなかいかと考えている。

通常であれば展示を行ふ

ために、他施設から展示品を借用するが、莫大な費用と繁鎖な手続きを要する可能な限り費用と手間を抑えるため、私の所蔵する著作を展示することにした。これは過去三〇年にわたりて、私が医学概論の中でも医学史の講義を担当してきた関係で、年に数冊ずつノーベル医学・生理学賞受賞者による著作を求めてき

たものである。たゞ、著者抑制の品目は、例えは一九〇一年の第一回の賞はフォン・ベーリングのジフテリーの血清療法の業績に対して与えられたが、恐らくどなたも原著御覧になつた方はいない、と思う。一九六二年の受賞者はクリツク、ワトソン、ウイキンスらのネイチャード誌DNAの二重ラセン構造に関する論文別刷は、三人

の目的は若い方々の学問
欲望を刺激することにあつた
この意向を十分に汲んで
しい。この意味で、展示
を楽しんで貰うことが出
れば幸いである。
なお企画に際して、遠
医学部長、工藤（一）分
長、図書委員会委員の方々
御協力を戴いたことを記
て感謝申し上げる。

的なる。欲会来藤館々、なしあし井上芳郎北海道大学医学部
度要請し、同氏と協議の結果、医系他大学教官として、
委員・久道茂東北大学医学部長に評価委員の就任を再
びして先の外部評価の際、管理運営を担当された評価
が担当することとなつた。
この外部評価は、前回の外部評価の具体化を進めて
いる外部評価具体化委員会の活動が、その目的を達成
するに至った。

一方外部評価委員会は、当医学部構成員の生の声を収集する目的で、全教官にアンケートを実施することとした。これは、全教官に講座運営に関するアンケート用紙を配り、その回答書を厳封の上、学内の投書箱に投函し回収する方法で行われる。回収された用紙は、当医学部事務官二名によつて仙台の外部評価委員長へ

麻醉学講座
松木 明知

學部長寄稿

再び外部評価を 受けるにあたって

医学部長 遠藤 正彦



のような医学部の構成単位としての講座・部門のあり方には、両講座に限らず他にも様々な問題のあることが指摘されているので、学部の構成単位としての講座の管理運営等の現状を検討する必要が生じた。

当医学部は、昨年に続いて再び外部評価を受けることとなつた。その動機は老年科学講座及び内科学等三講座問題にある。両講座内の問題の根底には、講座内の人間関係の軋轢があり、「ミニニケーションや信頼関係が全く欠落し、様々な問題に対して講座内で一度も論議されることなく、内部告発の形で一举に外部に持ちだされたことがある。こ

の目的は若い方々の学問的
欲望を刺激することにある。
この意向を十分に汲んで欲
しい。この意味で、展示会
を楽しんで貰うことが出来
れば幸いである。

なお企画に際して、遠藤
医学部長、工藤（一）分館
長、図書委員会委員の方々
図書館事務の方々に多大な
御協力を戴いたことを記し
て感謝申し上げる。

貴重なものである（左の写真）。

このほか、G蛋白の発見者テキサス大学のギルマン教授の一九九四年度のノーベル医学・生理学記念講演刷など、通常見ることの出来ない珍しい資料が展示される予定である。他大学ではこのような展示を行ふことはまず不可能であると思われる。

も部局化も不可能との見通しを持ち、それに代わるメディカルスクール化への将来構想を策定した。そして、他大学も関心を寄せるような教育、研究、診療及び管理運営について様々な改革を進めてきたところである。しかし、両講座問題の発生を契機に、医学部の構成単位としての講座のあり方や、その構成員の意識の改革までは至らなかつたことを知

運営等の実態を明らかにするための資料・三十三点が準備された。同時に医学部・附属病院自己評価委員会によって、各講座の管理運営等に関する協議やその決定が、如何に行われているかの実態調査としてのアンケートが、講座の管理責任者としての教授と、立場を変えて実状を良く知る助教授または医局長に対して実施され集計された。

笹井啓資先生 順天堂大学教授に就任



笹井 啓資先生

昭和五十六年卒業の笹井啓資です。このたび平成十二年四月一日付けをもって、順天堂大学医学部放射線医学講座教授に就任する事になりました。

専門は放射線腫瘍学で、放射線治療およびその基礎的研究を行つてきました。

放射線治療は、ご存知のようにがん治療の三本柱の一つです。手術や化学療法と比較して、高齢者や全身状態の不良な患者にも施行可能です。さらに最大の利点として、臓器の機能や形態の温存が可能です。このように放射線治療はQOLが重視される新しい時代の重要ながん治療法で、今後もますますの充実が期待されます。

さて私は、昭和五十年四月に本学に入学いたしました。この年、吉田豊先生が教授に就任され、入学直後に駅前にあつたりんご商工会館？でお話を伺つたことを昨日のように記憶しております。新寺町に三年、大富町に三年間下宿しておりました。卒業後は弘前を一度訪れたのみですが、放射線医学講座の阿部由直教授から大学や弘前の様子を時々うかがつて懐かしんでおります。

卒業後、京都大学放射線医学・核医学講座に入局いたしました。同期の入局者

が京都大学出身者十二人、他学が私を含めて一人といふ状態で、また全く知人のいない関西で心細く思つておりました。しかし、京都大学病院で一緒に研修した七人や、医局の先輩によくしておられた天理よろづ相談所病院に勤務しました。

その後、第一外科の鯉江教授が弘前に来られる前に部長と有する大病院で機器も最先端のものが稼働していました。画期的なレジデント制度があり、弘前大学での同級生や先輩もおられました。この病院はベッド数千床を有する大病院で機器も最先端のため一年で帰国する事になりましたが、私の帰国後も、同教授の下に後輩が行いました。教室が人手不足のため四年間、画像診断および放射線治療の基礎から最先端までを学びました。

昭和六十一年に、京都大学医学院医学研究科放射線医学に入学しました。当時の教授は術中照射法の父と呼ばれる阿部光幸教授で、私は「放射線効果の薬剤による修飾法の研究」を大学院の主テーマとして与えられました。大学院の四年間で講師、助教授として腫瘍内低酸素細胞分画の測定法の開発および細胞の放射線感受性予測法の研究に加え、放射線や低酸素状態など腫瘍内環境による特異的遺伝子発現に関する研究を大学院生とともに行つてきました。臨床面では放射線治療一般を行つていますが、特に悪性リンパ腫の放射線と化学療法を用いた集学的治療、ラジオサージェリーを含む脳腫瘍の集学的治療、前立腺癌の三次元放射線治療などを主な研究対象としています。

順天堂大学は放射線診断部門は大変充実していますが、私が主に担当する放射

抗性を克服することを目的として、工学部と共に新しい低酸素放射線増感剤の研究に取り組みました。KU-158の開発コードを付けた

薬剤は臨床治験直前まで行

きましたが、製薬会社の外

国企業との契約問題から中止になってしまったことが残念です。

Brown教授に認められ、平成三年から一年間、教室から初めて同教授の下に留学いたしました。

この間の研究業績が低酸

素細胞放射線増感剤の大家

であるスタンフォード大学

卒業後、京都大学放射線

医学・核医学講座に入局いたしました。

昭和五十六年卒業の筆者

が京都大学出身者十二人、

他学が私を含めて一人とい

ふ状態で、また全く知人の

いない関西で心細く思つて

おりました。しかし、京都

大学病院で一緒に研修した

七人や、医局の先輩によく

しておられた天理よろづ相

談所病院に勤務しました。

その後、第一外科の鯉江教授が

弘前に来られる前に部長と

有する大病院で機器も最先

端のものが稼働していました。

この病院はベッド数千床を

有する大病院で機器も最先

追悼



故 横山 雄 教 授

(小児科学講座)

平成十二年三月十一日、小児科学講座の横山雄教授がご逝去されました。横山教授を偲んで、生前より親しかった斎藤良治教授にご寄稿をいただきましたのでご紹介するとともに、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

横山先生と共に通つた二つの道場

斎藤 良治

(産科婦人科学講座教授)

昭和二十九年の春、大学の入学式が終わりクラブ活動が始まつた頃の放課後に、柔道部への入部希望で、教養部の道場に行つたところ、まだ誰も来ていない道場に一人だけ同じ新入生とおぼしき先客があつた。それが横山先生と私の最初の出会いであった。学生服の襟章が同じS(理学部)であつたこともあり、お互い近親感を覚え、自己紹介をしあつた後早速二人で乱取り稽古をした。身体は小さいが足腰が強く、足技には油断出来ないぞと云うのが私の第一印象であった。

教養部では物理・化学・生物の実習が夜にまで延長して行われることもしばしばであり、また二年弱で医学部本科への転入試験もあってそれなりに大変だったが、横山先生も私も真面目に道場には通つた。医学部進学者後も私達二人は体力不足を稽古で補おうとばかり道場に通つた。私が道場に顔をだせば必ず彼もきていた。全学柔道部の合宿練習にも参加して汗を流したお陰か、自分でやつと手術がおぼえら

れると、専ら腹切りの勉強に精を出した。一方横山先生の方は当時の荒川教授にアシッドなど、血液関係の研究をもつと続けたい」と願い出たが、その希望は容れられず白河厚生病院への赴任となつたそうである。発表された。今回の受験者としての対応の仕方がいか格者数七、〇六五名(合格率七九・一%)で、合格率が八



故横山雄教授医学部葬 3月29日 公益セレモニーホールにて 奥様のご挨拶

学生自習室が完成

—学生に開放される—



前号(十二号)の医学部ウォーカーで医学部基礎講堂が生活の場になつてゐるという記事が掲載された。昨年の外部評価でも、学生のための自習室の設置が要望されたが、このたび遠藤医学部長の肝煎りで、医学部基礎研究棟の地階、学生ロッカーリー跡に自習室が設置され、四月二十七日学生に引き渡された。個別に間

しきりされた空間に机が四十台、エアコン完備なので四季を問わず勉強できる部屋である。筆者もそこで仕事をしたいと思つたくらいである。自習室の設置により、「講義室が生活の場」であることが思い出話となり、国家試験合格率が常に上位になれば万々歳である。

(中根記)

第九十四回医師国家試験結果について

あつたのか?この点は、全国集計の結果からみて否定的である。このカリキュラムの要因については次回の国試結果を待たねばならないが、カリキュラムの改革が直ちに国試合格率を高めることになるとは考え難い。むしろ、SGT制度を含めて臨床に則した教育の在り方が大きな要因ではないだろうか。この点については現在、臨床実習をより効果的な内容とするために学務委員会が検討中であり、その結果に期待したい。いずれにしろ、来年度は医師国家試験の大幅な改定の年にあたり、問題数の増加とともにさらに臨床応用に主眼をおくいた出題が増えると予想されるため、いまから早急の対策をたてることが必要である。

本医学部の合格率は新卒者一〇五名中八十三名(合格率七九・〇%)、既卒者一二名中十四名(合格率六三・三%)で、総計すると一二七名中九十七名(合格率七六・四%)と全国平均を大きく下回り、一九八五年以降最低の数字であった。特に大学四十三校中三十九位、二七名中六十位と極めて悲観的な結果となつた。この結果についてはいろいろな要因が考えられるが、

その一つには最近の医学教育の傾向を反映した臨床的知識を重視する問題が多く出題されるなど、出題傾向の変化にあると言わざる。その他、現行のSGT制度や卒業試験の在り方等の問題点も指摘されているが、その多くは複合的な要素によるものと思われる。

本医学部では、平成七年度から六年一貫教育を取り入れた新カリキュラムによる授業を実施しているが、今年の受験者は旧カリキュラムによる最後の学年である。旧カリキュラムと出題傾向との間にギャップがある。旧カリキュラムと出題傾向との間にギャップがある。

一九九九年（平成十二）九月二十日の英國王立麻酔科医会（The Royal College of Anaesthetists）は選挙を行い、四人にフェローの称号（FRCA）を贈ることに決定した。三人は英国の方で、外国人としてはただ一人小学生が選ばれた。寝耳に水とは正にこのことで、私にとつては全く考えたこともない事態である。そして去る三月十四日口



英國王立麻醉科医会の

フエローに推戴されて

麻醉学講座
松木 明知

内分泌機能の研究を永く行つており、英國で始まつた全靜脈麻醉の日本における開拓者であること、私が三十年間英國麻醉科学の先達 John Snow や James Young Simpson の研究をして、その著書を復刻配布したこと、王立麻醉科医会の図書館の充実に協力したこと、さらには日本麻醉学会の国際交流委員会の委員長として過去六年間この麻醉科医会との交流改善に協力したことなどが紹介された。

恩師尾山力先生、カナダアルバータ大学の故 John McIntyre 先生の蔭ながらの御支援があつたればこそ名誉あるフェローに推戴されたのであり、両先生には心から感謝の意を申し上げたい。この推戴は私個人といふよりも、弘前大学医学部麻酔科学教室に対するものと私は考えており、この意味で教室員、同門会の諸先生と共に、医学部の教授会の諸先生方にも心から御礼申し上げる次第である。

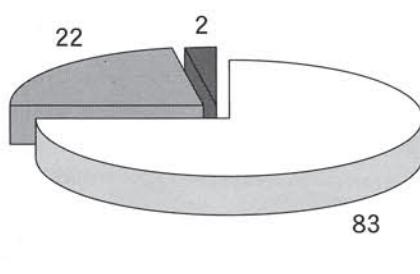
シンドンで推戴式があり出席し、会長のレオ・ストルーニン教授より推薦状を授与された。

フェローの称号を戴いて
いるのは、日本麻酔学会の
現職の教授としては小生一
人で、この意味でもフェロー
の称号の重さを十分感
じております。今後一層の精進
を積みたいと思う。

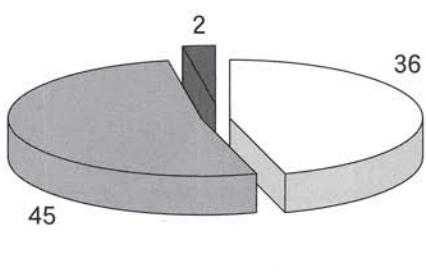
フェローの称号を戴いてい
いるのは、日本麻醉学会の
現職の教授としては小生一
人で、この意味でもフェロ
ーの称号の重さを十分感
じており、今後一層の精進
を積みたいと思う。



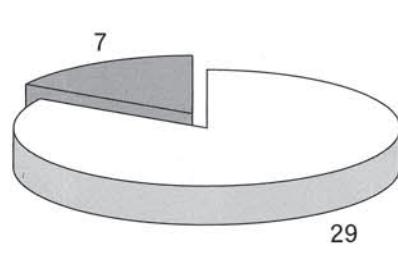
國家成績試驗



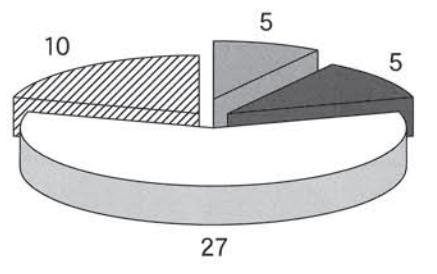
合格者進路(全体)



合格者進路(県内)



合格者進路(県外)



平成12年度

新入生歓迎会



今年の新入生は定員の一〇〇名で、男女比は六十八対三十二、青森県からは二十四名（昨年二十八名）、青森県以外の東北五県から三名（昨年十二名）、北海道からは四名（昨年五名）がそれぞれ入学した。出身校別として県内では弘前十名（昨年十五名）、青森四名（昨年六名）と八戸七名（昨年六名）、三本木二名であつた。他に、函館ラサール、仙台第二、高田（新潟）、川越（埼玉）、東海（愛知）から各一人などであり、本年の特徴は前期日程試験の高倍率を反映してか、出身校の分布に変化が見られたようである。このような新入生を迎え今年も四月六日の入学式に引き続いだ、恒例となつた

新入生歓迎会が鵬桜会と医学部学友会の共催によりメイカルミニケーションセンターで開かれた。歓迎会では遠藤医学部長、兼子副病院長、石戸谷鵬桜会理事長、医学部各教授の歓迎の言葉に引き続き、新生への記念品贈呈や医学部五十周年のビデオ、およびスライドの上映が行われた。引き続きパートナーが行われ、新入生と教官・鵬桜会役員・医学部在学生が祝杯を片手に大いに盛り上がる。とともに、医学部所属の各サークルの勧誘も盛んに行われていた。今年は黒が流行のようで、多くの新入生が黒の上下に身を包んでいたのが目をひいた。

平成十一年度は一〇七名の卒業生を送り出した。本国の国家試験合格率が七九・一%と昨年以上に下がる中、本学の新卒合格者は八十二名（七九・〇%）、既卒者受験者数二十二名中十四名（六三・六%）が合格し、新卒・既卒を合わせての合格率は七六・四%であつた。新卒者のうち二名は受験しなかつた模様である。この数字は全国八十の医学部・医大で六十番目（昨年五十八番目）、四十三国立大学中三十九番目（昨年四十一番目）と極めて悪く、大學における国家試験対策のあり方が教授会で討議されている。新卒合格者八十二名の進路（四月二十二日現在）のうち、最終的に青森

県内に残った人数は三十六名（昨年四十一名）であった。県内に残る予定の者から九名の国家試験不合格者が出了たが、このうち三名は本学大学院に合格しており、これらに対して休学の措置がとられた。一方、県外に出た人は四十七名であったが、そのうち関東地方が半数（二十七名）を占め、県外の東北・北海道に進んだ人は十名であり、ほぼ昨年同様だった。いずれにして本学の存在意義を左右しかねない現状認識に立てば、県内に医師を定着させつゝ、国家試験合格率を上げる対策を学内的にとることが魯務であろう。

国際医療研究会フィリピン視察報告

フェローシップに参加して

医学部五年 堀内 智子

国内研修では、国際保健協力に対する知識が深まり、海外のみならず国内のこと、また、日本史、世界史など学ぶべきことがたくさんありました。そして海外のことを学ぶ際に日本の保険制度や地域医療の知識の必要性を痛感した。

国外研修先のフィリピンではWHO事務局で尾身先生にお会いできたほか、WHOで活躍するWu Guogao先生や弘前大学出身朝日先生ほか諸先生方からお話を伺うことができた。また、フィリピン大学学生と交流し、保健と家族計画に取り組むJICAのプロジェクトやNGOを訪れることができた。所属する国際研究会で英語の勉強会を行ったり、衛生学の実習では、介護保険やジエンダーについて考えるアンケートを行った。このときのジエンダーに関する知識は、フィリピンで開発と女性の問題を考える際、私の中のものさしとして役立つてくれたようと思う。

ちょっとあの暑さが懐かしくなった四月五日、フィリピンの証券取引所がエストラダ大統領を巻き込んだ株価の不正操作疑惑で揺れているニュースが新聞に載っていた。非公開情報を流れたり、ブローカー仲間で馴れ合いの売春をしたりするのは、日常茶飯事といわれる。タガログ語でいう

パキキサマ（不正でも仲間に付き合う）ウタンナ・ロオブ（恩義）はフィリピンの文化。スペイン支配を受けたラテン系のような国、フィリピンは多くの問題を抱えていた。

フィリピンの医療はアメリカを模倣している点が多く開業医が病院へ出向シス

テムをとり、包括的な医療に至らない。宗教上からも難しい家族計画。野菜の少ない食事とビタミン剤意向。

見学したRHU（Rural Health Unit）の違いから感じたことだが、地方分権の流れは保健活動を行っているNGOと

開業医が病院へ出向する際、草の根的な医療活動を行っているNGOとの協力をもっと広げたい。

多くの子供たちが遊ぶハ

ンセン氏病病院のなかで、

今なお格差はあるものの家

族の支えを感じて生

活していた患者さんたちの

笑顔は朗らかだった。多摩

全生園の患者さんたちを思

い出し、「すべての人の心も

身体も健康を！」と切に感

じた。

今、私は、スポーツのよう

に自分の中に吸収してきた

ことを一つ一つ取り出しな

がら消化している。多くの

人にあつたが、思いやり

の心を持つ自分の好きだ

と思うことをしていける人

が国際医療の現場で活躍し

ていることが一番印象に

残っている。短期間に国際

医療のトップからボトムま

で多岐にわたって見せて

いたいた知識を、自分の中

に立つてくれたよう思う。

ちょっとあの暑さが懐かしくなった四月五日、フィリピンの証券取引所がエストラダ大統領を巻き込んだ株価の不正操作疑惑で揺れている。プロジェクトが終了した後も地域住民の中に根付くような援助をして行くためには、調査

の結果が報じられました。今回の基礎校舎地下の改造に伴い、寄生虫学講座の神谷晴夫教

図書館だより

閲覧室、自修室化へ

用して下さい。

コラム

医学部こぼれ話

いっぱい国書館で何とか出来ないか、との相談を何度も受けました。今回の基礎校舎地下の改造に伴い、寄生虫学講座の神谷晴夫教授のご好意で集密書架を使

用出来るようになりました。

書館二階閲覧室も、同様に、

「自修室」を兼ねた場

に時間がかかる。しかし、

援助が開始した頃には、も

うその援助は最重要課題で

ました。一切手続き必要な

ことで、全て借出や返本は貴

方のお心任せの自由図書

館二階閲覧室も、同様に、

「自修室」を設けられました。

開館時間外も自由に使用で

きます。工事はほぼ完了し

ました。一切手続き必要な

ことで、全て借出や返本は貴

方のお心任せの自由図書

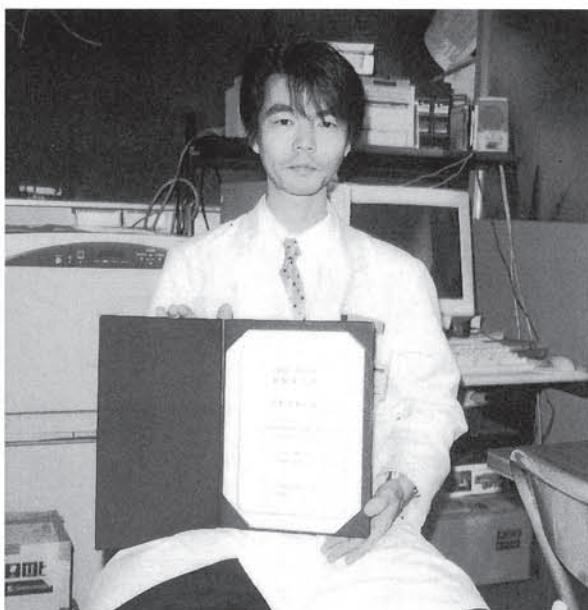
館二階閲覧室も、同様に、

「自修室」を設けられました。

開館時間外も自由に使用で

できます。工事はほぼ完了し

田野崎真人博士(第三内科) 「日本脳波筋電図学会 第1回奨励論文賞」受賞



表彰状を手にした田野崎真人博士（第三内科）

日本脳波筋電図学会（平成十二年度より日本臨床神経生理学会と改称）では、脳波や筋電図などの臨床電気生理学に関する研究発展を図ることを目的に平成十一年度から奨励論文賞を制定した。その栄えある第一回奨励論文賞に本学第三内科・脳研神經統御部門から出された「正中神經体性感覚誘発電位の加齢による変化」が選ばれ、平成十一年十一月十一日に行われた同学会総会において筆頭著者田野崎真人博士が学会理事長である米国アイオワ大学木村淳教授から表彰状と脳研神經統御部門とが共に授与された。同論文は平成十年一月の脳波筋電図学会誌に掲載された田野崎真人博士が学会理事長である第三内科の学位論文で、第三内科と脳研神經統御部門とが共に続いている体性感覺中

枢伝導に関する電気生理学的研究の一環をなすものである。また、本論文を更に发展させた田野崎博士の仕事は平成十一年末の Clinical Neurophysiology (旧 Electroencephalography and Clinical Neurophysiology) に掲載された。ちなみに田野崎博士は脳磁図 (MEG) を用いた更なる研究発展のため、精神医学総合研究所に国内留学の予定である。また、MEG は本学附属病院にも設置が決定し、平成十二年度内に稼働開始が予定されている。本学が本邦の脳神経機能研究において重要な役割を担うことが期待される。

尚、募集要項は附属病院総務課人事係で取り扱っており、応募締切は平成十三年一月三十一日となつていて

附属病院麻酔科小谷直樹講師の発表した研究論文 "Volatile anesthetic augment expression of proinflammatory cytokines in rat alveolar macrophages during mechanical ventilation" が日本麻酔学会山村記念賞を授賞した。小谷講師は、ラットを用いた



実験で、揮発性麻酔薬吸入が肺胞マクロファージに極早期に炎症性サイトカインを誘導させること、その誘導は麻酔薬によって異なることを証明し、周術期の肺

免疫能保全のための麻酔管理の改善や、周術期肺合併症発症の危険因子の評価、早期診断や治療の改善に資することを評価された。

(中根記)



小谷直樹講師（麻酔科） 日本麻酔学会山村記念賞受賞

いよいよ始まる 卒後臨床研修

卒後臨床研修は平成十六

年度の義務化に向け、現在、

各省庁において詰めの段階

に入っている。当医学部で

はこの事態に対応すべく

「平成十三年度弘前大学医学

部附属病院臨床研修医募集

要項」を作成し、さらに研修

プログラムの改訂作業も終了した。

来年度の要項の概略は本

医学部の現況を考慮して、

かなり柔軟性を持たせた内

容となつていて。すなわち、

附属病院での研修方法はこ

れまでのスーパーローテー

ト方式に加え、内科中心

ローテート、外科中心ローテー

ト、その他の科中心

と実施方法についての細か

い作業を急いでいる。特に、

研修施設群の対象となる機

関はその規模に関わり無く、その

実施方法についての細かい

作業を急いでいる。特に、

研修施設群（平成五年の厚生省健政局長通知、臨

床研修指定基準による）を

形成し、臨床研修実施への

参加を呼びかけている。現

る。また、関連研修機関に

ついてはこれまでと同様、

わゆる「ストレート入学」が

なくなり、二年の臨床研修



新中央診療棟完成!

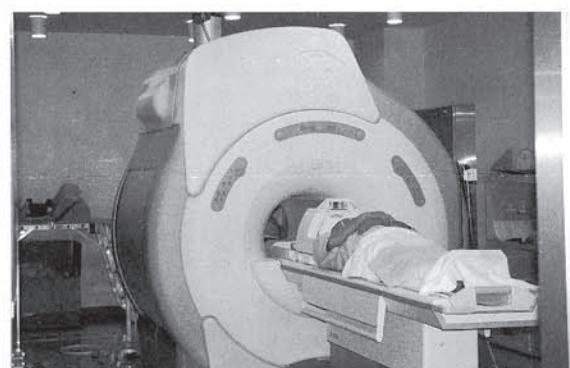
—更なる医療の発展に向けて大きな期待—



新中央診療棟外観



放射線部の新ヘリカル CT 装置



放射線部の新 MRI 装置



周産母子センター (NICU にて)



強力化学療法室 (病室内的シャワー装置)

このたび、平成八年度から始まった中央診療棟の新築整備が完成し、本年四月三日から本格的に供用開始された。新中診療棟(略称)は、地下二階から地上一階までが放射線部、二階が検査部と病理部、三階が材料部と周産母子センター、四階が集中治療部、救急部、強力化手術部というフロアー構成となっている。

放射線部は一部移転が完了していらない部署もあるが、何と言つても新機種のヘリカル CT と M R I の設置が目玉であろう。撮影機能の大大幅な向上によるメリットは計り知れないものがあると感じた。検査部は室構成が一変し、広いスペースに諸検査の自動搬送処理システム(ロボット)が目立つ。

検査業務の省力化と効率化ばかりでなく検体間違い等のリスクも回避できるとのことであった。材料部は旧来のイメージを一新した。洗浄滅菌機器は新品になり自動化されているのが印象的であった。周産母子センターは、陣痛・分娩室や未

たりとした快適な療養空間となりとした。

これまでの地下一階から地上四階となつたため、治療室からの景観が素晴らしく副

次的な療養効果が期待出来る

熟児・新生児入院室がゆつ

そつである。隣接する高压酸素治療室は安全面に配慮

した機器が更新された。救

急部はデジタル X 線画像

解析システムが導入され

他、患者監視装置も充実し

新たな発展が期待される。

強力化学療法室では見晴らしの良好な病室が窓越しに

面会が出来るようになると

共に、病室毎に滅菌水供給

のトイレとシャワーが設備

された。手術部は手術患者の移送設備や、国内でも有

数の規模となつたりカバー室が目玉とのことで

あった。また、地下一階から四階の各階には家族控室

が設置され、患者さんの家

族への配慮が伺われた。

以上、簡単に新中診療棟の

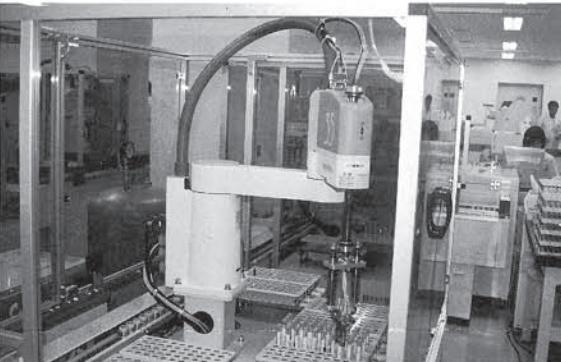
一部を紹介したが、各診療

部門の詳細については次号

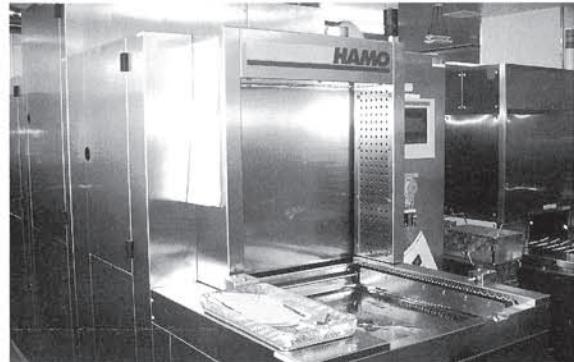
よりシリーズで紹介するこ

ととして、一足先に新棟内

の写真をご覧頂きたい。



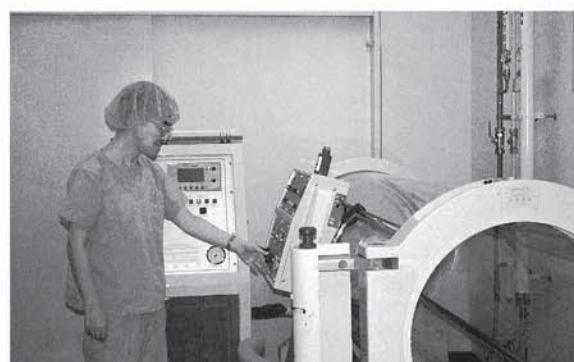
検査部の自動搬送ロボット



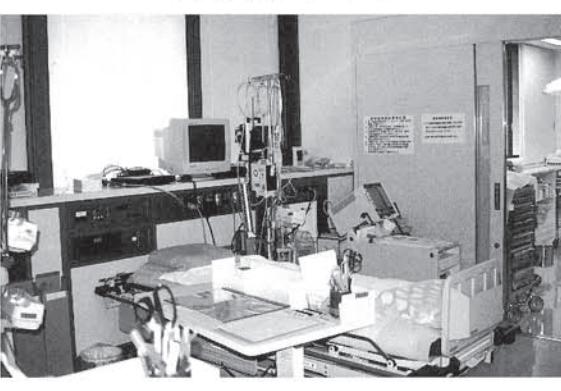
材料部の洗浄滅菌装置



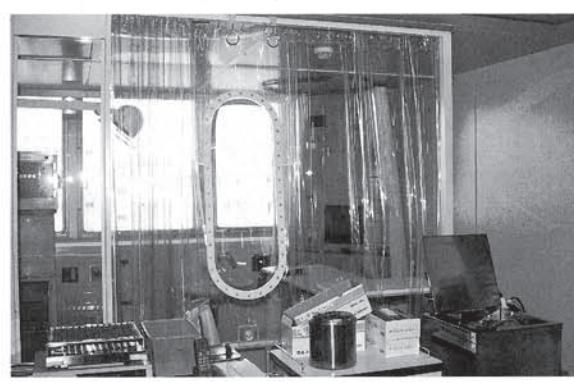
集中治療部 (ICU) 内



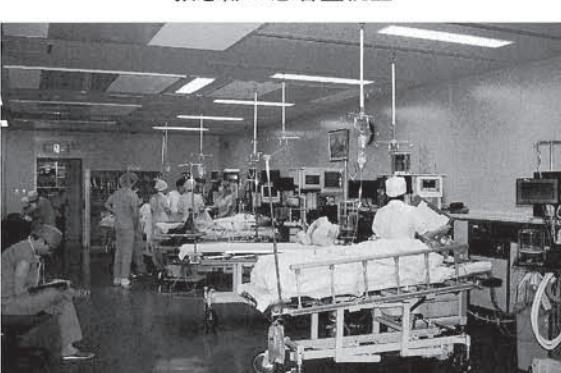
高圧酸素室の新装置



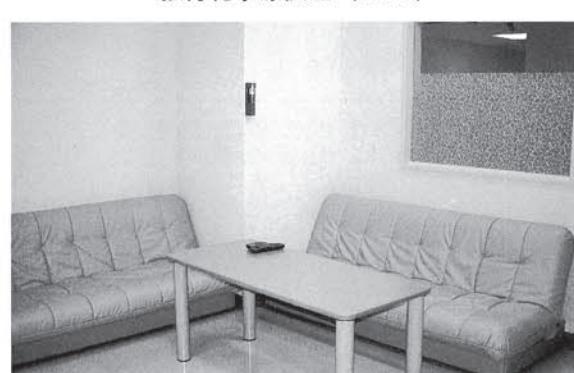
救急部の患者監視室



強力化学療法室 (ICTU)



手術部のリカバリールーム



患者家族控室の内部



昼食をとりながらの会談の模様

極東医大との 共同研究が具体化に

内科学第一講座 棟方 昭博

一九九五年十二月に調印した弘前大学と国立極東医科大学との学術交流に関する合意書が、本年末に五年間の有効期間に達するため更なる学術交流の延長について、来弘したボリスM・コグト学長と遠藤正彦医学部長、蔵田潔国際交流委員長等との間の会談が平成十五年五月二一日メディカルミュニケーションセンターでもたれた。

次いで人的交流に加え、来年度以降は両大学の共同研究の進め方が討議された。基本的に両大学での共通の臨床課題を取り上げ、臨床の現状と研究の状況から次の三つのテーマに絞って共同研究を進めることがとした。

(一) 乳癌の疫学的研究 (生涯学習教育センター
高嶋一敏助教授)

(二) 脳血管障害の疫学と臨床 (脳神経外科学 鈴木重晴教授)

(三) 末梢血流障害—下腿を中心とする (第一外科学
鈴木宗平教授)

(一) 内は弘前大学担当者
上記の三疾患の両国での比較検討について、疫学的アプローチから診断・治療の現況が話し合われたが、具体的な方法については両

大学で各々責任研究者を決め、研究を進めることとした。尚当日出席した極東医科大学脳外科ヘルムスキーハ教授と脳外科鈴木教授との間には具体的な方法論などが討議されていた。医療設備や研究レベルでの両大学での格差など共同研究を進めるに当たって多くの問題が推測されるが、人的交流を密にしながら研究成果が上がるこことを期待したい。

弘前大学医学部
臨床教授・臨床助教授
称号付与者

倉橋 幸造	(青森県立中央病院神経内科部長)
平成十二年四月一日～平成十五年三月三十一日	菊池 椎夫
（青森県立中央病院外科部長）	平成十二年四月一日～平成十五年三月三十一日
井上 茂章	（青森県立中央病院外科副部長）
平成十二年四月一日～平成十五年三月三十一日	三上 泰徳
（青森県立中央病院外科副部長）	平成十二年四月一日～平成十五年三月三十一日
高橋 義博	（大館市立総合病院小兒科部長）
（大館市立総合病院外科副部長）	平成十二年四月一日～平成十五年三月三十一日
館岡 博	（大館市立総合病院外科副部長）
平成十二年四月一日～平成十五年三月三十一日	

臨床助教授

三上 勝也（国立弘前病院外科医師）

人事異動

● 医学部	
死 亡	12・4・16 (転入) 生理学第二 助手
小兒科学 教授	12・3・11 (転出) 外科学第二 助手
横山 雄	12停 年 3・31 福田 道隆 (青森県立保健大学) 脳研機能回復 教授
小林 恒 (附属病院講師)	12辞 職 3・31 皮膚科学 教授 橋本 功 (青森労災病院) 内科学第三 助手 酒井 陽子 (日本大老人病研究員) 皮膚科学 助手 木村 淳也 (五所川原市立西北中央病院) 眼科学 助手 高橋 大介 (五所川原市立西北中央病院)
12昇 任 4・1 歯科口腔外科学 助教	12復 職 4・15 外科学第一 助手 豊木 嘉一 (10・10・16) 放射線科 講師 真里谷 靖 (青森市民病院) 歯科口腔外科 講師 小松 賢一 (北秋中央病院) 第三内科 助手 松井 淳 (板柳中央病院) 第三内科 助手 尾崎 勇 (青森県立保健大学) 第三内科 助手 酒井 謙 (未定) 第一外科 助手 小野 裕逸 (弘前中央病院) 整形外科 助手 保村 昌宏 (弘前記念病院) 皮膚科 助手 菊地 隆 (鶴ヶ島腎臓研究所弘前病院) 歯科口腔外科学 助手 佐藤 五十嵐恵一 (鶴ヶ島腎臓研究所青森病院) 皮膚科 助手 三浦 一志 (医員) 整形外科学 助手 橋本 安弘 (医員) 眼科学 助手 加藤 智博 (五所川原市立西北中央病院) 臨床薬理学 助手 兼平 裕 (医員) 12採 用 4・1 周産母子センター 助手 遠藤 哲 (三戸中央病院)
12休 職 4・1 第三内科 助手 神成 一哉 (板柳中央病院) 皮膚科 助手 松崎 康司 (大学院生)	12休 職 4・1 第三内科 助手 後藤 尚 (10・4・1) 泌尿器科 助手 工藤 大輔 (13・4・14) 泌尿器科 助手 工藤 尚 (10・4・1) 泌尿器科 助手 後藤 尚 (10・4・1)

◆ 最近、本医学部の卒業生が他大学の教授に選任されるケースが続いており、関係者にとって誠に嬉しいニュースである。しかし、今年の卒業生の母校残留率や国試合格率は、教官の目から見て極めて厳しい数字で、対応の急がれる所である。今秋から始まる六年次対象の総合試験や SGT の改革に期待したい。

◆ 先日、所用で十和田湖まで出かける機会があった。久しく忘れていた新緑と紺碧の湖面に接し、自然を満喫した。この自然豊かな青森県よりも学生を惹き付ける他県、他施設の魅力は何だろう…。つい、卒業生残留率の低下と結びつけて考えてしまう。卒後臨床研修制度の義務化を控え、今、医学部内外の環境づくりに真剣に取り組む必要がある。

◆ 松木教授の収集されたノーベル医学・生理学賞受賞者の著作が医学部分館展示室で公開されている。いずれも世界的に貴重な別冊で、直接観る機会は滅多にないと思う。是非、ご覧頂きたい。かのアインシュタインは小学生の頃、数学以外は出来が悪く、学校の先生に「君は将来、口��な人間になれない」と言われた、と何かの本で読んだことがある。先生の気持ちは分かるが、教官としては気になる話もある。ノーベル賞にまつわるエピソードには興味深いものが多い。